

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1170202780	
法人名	ALSOK介護株式会社	
事業所名	グループホームみんなの家・川口	
所在地	埼玉県川口市安行領根岸861-2	
自己評価作成日	令和7年10月1日	評価結果市町村受理日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ユーズキャリア
所在地	埼玉県熊谷市久下1702番地
訪問調査日	令和7年10月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

介護経験年数が5年を超えた介護職員がほとんどで介護福祉士を取得している職員が6割を超えている。当事業所に在籍している年数が長い職員も多くご利用者様のことを長く見てきた職員がいる。また新たに入職した職員も経験をいかしたご利用者様へのケアを行っている。環境面に関してもみんなの家・川口は、芝川土手沿いにある自然豊かなホームになっている。その特徴を活かし、四季折々に変わる景色を楽しみながら散歩ができる。また、地域のお祭りに参加したり、施設内のレクリエーションにご家族様や地域の方を招いて、交流する機会を作っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「東浦和駅」からバスで約8分、バス停から徒歩10分の場所に位置する、鉄筋2階建て・2ユニットのグループホームである。近くには芝川土手沿いの遊歩道があり、四季折々に変化する風景を楽しむことができる自然豊かな環境である。天気の良い日には利用者とともに散歩に出かけ、季節の移ろいを感じながら過ごしている。また、地域とのつながりを大切にしており、地域包括支援センターが主催するオレンジカフェに利用者とともに参加し、ALSOK介護独自の体操やレクリエーションを披露している。さらに、壁飾りの制作やおやつ作り、季節ごとの行事などを通じて、利用者が楽しみながら充実した日々を過ごせるよう工夫している。職員研修については、新人研修をはじめ、必要な研修を全員が受講できる体制を整えており、職員が安心して成長できる環境となっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

川口市
福祉課
7.12-5
受付

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム理念は「コミュニケーションを大切にする」全職員は認知症の特性を良く理解して、ご利用者様の立場に立ち、ニーズがどこにあるかに焦点をあてて、コミュニケーションを図っている。	事業所理念およびフロア理念を事務所内に掲示している。フロア理念は「利用者・家族・職員の三つの笑顔」であり、誰にでも分かりやすく、職員全体で共有しながら支援に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域包括支援センターにホームの運営状況を提出したり、毎月の自治会の会合に参加している。地域の夏祭り・敬老会に参加している。継続して地域包括主催のオレンジカフェにホーム長・ご利用者様代表で参加している。	地域との交流に力を入れている。毎月開催される自治会の会議にはホーム長が出席し、祭りなどの行事には利用者とともに参加している。また、中学校からの体験学習の受け入れを行うなど、地域との関わりを大切にしている。さらに、地域包括支援センターが主催するオレンジカフェにも利用者とともに参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会の会合に参加したり、民生委員の方から話を伺ったりして地域の方の様子を把握している。また敬老の日には自治会より敬老の品を頂いた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回、地域包括支援センター担当者、ご家族様、ご利用者様代表が参加し、施設の活動報告を行っている。	運営推進会議は2か月に1回開催している。地域包括支援センターや家族からの意見を聴く場として位置づけており、施設に関する情報やお知らせの共有を行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	防災や運営推進会議の情報など市の担当者と連絡を取り、協力関係を築いている。	市との連絡および情報交換は主にメールで行っている。運営推進会議には市職員の参加はないが、毎回議事録を提出している。また、居室の空き状況や事故発生時の報告なども随時行っている。市からは、防災関連情報やボランティア活動に関する案内などの情報提供を受けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を3ヶ月に1回、研修を年2回開催している。	定期的に身体拘束廃止委員会、職員研修を実施している。研修は一定期間を設け、動画視聴による学習ののち、レポートの提出および確認テストを行っている。職員は個人ごとに成果を提出し、全員が研修を受講できる体制を整えている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を年3回、研修を年2回定期開催し、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員それぞれが必要な研修は個別に案内し研修に参加している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約は十分な時間をかけて、懇切丁寧に説明と同意を得ている。解約の際は、話をよく伺っている。改定の際は、文書で説明と同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	常時、ホーム長、管理者、計画作成担当者が、意見を聞く様に努めている。運営推進会議は書面で開催を案内し、毎回テーマを決めて意見を募集する。会議内でテーマ内容も話をする。	利用者の意見は、日々の生活の中で確認している。家族会を年2回開催し、家族からの意見や要望を聴取しているほか、面会時や電話でも話を伺う機会を設けている。また、外部への相談窓口については契約書に明記するとともに、口頭でも説明を行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	普段から職員とのコミュニケーションを良く取り改善すべき点があればなるべく迅速に解決している。	職員の意見は、毎月の職員会議およびフロア会議の場で聴取している。各階の業務負担の分散を考慮し、話し合いを通じて入浴支援などの業務を協力して行っている。また、ホーム長やケアリーダーが個別に意見を聞く機会を設け、案件によっては本部と連携し、解決を図っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の人事考課と、年2回の個別面談を実施している。 職員の希望出勤日数を聞きなるべく希望に添えるようシフトを調節している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各職員に対し法人内の研修があるので参加を促している。また、研修内容を資料で共有し、職員会議で発表するようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	社内で管理者会議が月1回あり、情報の共有・交換を行っている。その内容は職員会議等で周知している。また代表者と管理者で個人面談を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の実態調査を実施している。またご家族様から入居までの経緯や事前の生活歴などを伺いケアプランに反映させている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の実態調査を実施している。ご家族様の見学の際にもご家族様の要望に応えられそうな事柄は提案を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	実態調査の段階で他のサービスの説明を行いご家族様と話し合いを持ち必要であれば他のサービスの提供も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お手伝いとしてご利用者様と一緒に食器洗い・食器拭きやホールの掃除・シーツ交換・洗濯物干し・洗濯物たたみなど行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	居室での面会を行っている。また納涼祭ではご家族様の参加も案内し、家族参加している。また、希望に応じて外出時に外食もしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご利用者様への面会希望の方には、スムーズに対応するように心がけている。	知人や家族との面会、外出、電話などをスムーズに行えるよう支援している。家族との外出の際には、自宅への外泊を楽しむ利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	生活活動(清掃・洗濯物など)を皆で行い、良好な関係が築ける様に支援している。ホールでの席を相性を考えて設定している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご逝去されたご利用者様のご家族様から電話があった際にもご要望に応えるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	実態調査や入居後に伺った情報から、生活歴や価値観などを把握し、1人1人に合った言葉掛けや対応を実施している。	入居前の実態調査時に、本人および家族の希望や要望を確認している。入居後も、希望の変化や新たな要望を随時確認できるよう努めている。意思表示が困難な利用者に対しては、うなずきや表情などの反応を通じて意向を把握し、職員間で共有および検討を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	実態調査の際に生活歴や今迄のサービス利用の詳細を聞き調査票に詳しく記入している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録システムによって作業効率があがり、ご利用者様にかかわれる時間が増えた。申し送りノート・日々の申し送りは1人ずつ記載している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネジャー・ケアリーダーを中心として、ご利用者様からの意見や希望、気持ちを聞き取り、ご家族様の希望等も随時取り入れている。	家族および本人の意向をもとに、ケアマネジャーおよび計画作成担当職員が協議のうえで計画書を作成している。毎月の会議においてモニタリングを実施し、6か月ごとに計画書の見直しを行っている。また、利用者の状態に変化があった場合には、その都度見直しを実施している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活記録だけでなく、申し送りノートをもとに作り今後のケアの方法について随時記入し介護にあたっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者様の要望があった場合には各階のフロア長が要望をまとめ管理者に報告を行い買い物代行等できる限り対応を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご利用者様にはパズル等、昔趣味で行っていたことを活かし、ホームでもご利用者様のやる気がある時に行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の往診医の診療にて健康管理を行っている。急変時にも24時間対応の看護師と連携をとっている。	協力医療機関による訪問診療を月2回実施しており、健康管理および薬の処方を受けている。希望や必要に応じて、各診療科での受診支援も行っている。訪問歯科は月1回実施しており、週1回は歯科衛生士による口腔ケアを実施している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は気軽に看護職員にご利用者様の状態を伝えたり、相談している。また看護師連絡記録に職員から看護師へ伝えたい事があれば記入をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	介護サマリーを作成し医療機関の医師、相談員などと随時連携している。入院後も病院にて実態把握を行い、ご家族様にも報告相談を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	定期的な往診で状態の変化について早期に把握するのと共に往診で終末期の判断が出た場合にはご家族様に来て頂き、医師より状態を説明した後に看取りの同意書を作成するようにしている。	入居契約時に、利用者が重度化した場合の対応について意向の確認を行っている。看取り支援を実施しており、事前に説明を行ったうえで意思を確認し、同意書を取得している。利用者の状態に変化があった場合には、その都度、医師・家族・職員が協議し、内容の再確認を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時の対応表を備えスタッフルームの見やすい場所に貼りだしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に訓練を行うのと共に職員会議で避難場所や方法を決め、職員が行えるようにしている。	年2回の避難訓練を実施している。夜間を想定した初期消火および避難訓練、水害を想定した垂直避難訓練を行っている。災害や非常事態が発生した際には、「ALSOK緊急非常ボタン」により警備関係者が速やかに駆けつけ、対応できる体制を整えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お金・子ども関係・職業等、自ら表現しない場合はその話題に触れないように配慮している。	入浴およびトイレ介助の際には、外部から見えないよう十分に配慮しながら介護を行っている。入浴時には、利用者の希望に応じて同性介助で対応している。ブログ等に掲載する写真については、事前に同意書を取得したうえで掲載しており、個人名などの情報には十分な配慮を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	なんでも自由に発言できる雰囲気作りを心掛けている。自宅に電話をしたいご利用者様で、ご家族様が同意されていれば、ホームの電話を使用している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お風呂の順番を後にして欲しいと言う希望があれば、それに沿っている。散歩の希望があれば、職員が対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ホームで過ごされる服はいままでご利用者様が使用していた洋服を用意している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者様にメニューをホワイトボードに書いて頂いたり、テーブルを拭いて頂いたりしている。またお茶の時間ではご利用者様のご希望の飲み物をお出ししている。	チルドされた食材を職員が湯煎し、提供している。メニューは種類が豊富であり、パンや麺類など利用者の好みを取り入れている。利用者の嚥下状態については訪問歯科や看護職員に確認し、刻み食、ミキサー食、ペースト食などで個別に対応している。また、手作りおやつなどの様子をブログで発信しており、利用者が楽しそうに過ごしている様子が確認できる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食後に、食事水分チェック表に記入して把握している。摂取が少ない時は、理由を調査して改善出来る様に対応している。必要に応じてキザミ食、ミキサー食を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの介助、促しを実施して、全員が清潔保持している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し統一した誘導、声掛け、支援を実施している。可能な限り残存能力を生かしトイレで立位保持をして頂いている。	排泄の自立に向けた支援を心がけており、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、統一した声かけでトイレへの誘導を行っている。利用者の状態に応じて、パッド、リハビリパンツ、紙おむつ、布おむつ等を適切に使い分けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防のため水分を多めに摂って頂く、往診医や看護師に相談し、ヨーグルト等を自費購入して頂く、自立歩行の可能な方には、積極的に歩行訓練して頂くなどの工夫をしている。また、必要に応じて医師より薬が処方されます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご利用者様に入浴の案内をし希望にそぐわない場合には時間を変えて再度声をかけている。ご自分で気分がのった時間に入浴して頂いている。	入浴は午前中に実施し、週2回を基本としている。フロアごとに入浴支援を行っており、利用者の希望に合わせた対応を心がけている。入浴を拒否する場合には無理に勧めず、穏やかなタイミングを見計らい、信頼関係のある職員が対応するなどの工夫を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後に短時間の昼寝が出来る様に介助をしている。夜間は静かな環境を作り、安眠できている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご利用者様のお薬情報をスタッフがいつでも見られる所に保管しており、必要時に参照している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割をもって生活して頂けるよう、お手伝いなどに声を掛けたり、花の水やり・枯れた花を摘んだりして頂いている。散歩やちょっとした時間に外にでて頂いたりしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人のご利用者様は時々ご自宅に戻って夕食を一緒にすごして頂いている。	散歩に出かける機会を多く設けるようにしている。 家族の協力により外出を楽しむ利用者もいる。また、自治会からの誘いを受けて、オレンジカフェや町内会のイベントにも参加している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご利用者様で出来る方には自治会のお祭りの際屋台で買い物をしてもらった。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者様が家族や大切な方に電話をかけたたり、希望があれば代わりに電話をかけたたりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は早番と夜勤明けが見守りを兼ねて掃除を行い、ホールは職員とご利用者様が掃除をし、トイレは夜勤が掃除している。また居室やホールの温度管理も快適に過ごせるよう調節している。季節に合わせた飾りつけを行っている。	建物の老朽化に伴い、修繕やリフォームを行っており、清潔感のある共用空間を維持している。利用者とともに壁飾りの制作を行い、施設内を季節感のある装飾で整えている。また、温度管理についてもフロアおよび居室で利用者の様子を確認しながら、適宜調整を行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気が合うご利用者様同士で席を近くにしたり、午後にはご利用者様の状態に合わせて居室で休んで頂く等の対応を行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今迄ご自宅で使用していたラジカセやテレビ等を持参できるよう対応している。	自宅で使い慣れた物品の持ち込みが可能となっている。居室内は整理整頓が行き届いており、テレビやラジオを持ち込む利用者もいる。写真や施設内で制作した作品などを飾ることで、個々の空間をより快適に過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや自室が分かりやすいように表示している。また廊下には手すりが付いており安全に歩ける様に配慮している。		